

大会記念講演



“スポーツが地球を救う！ ～21世紀のスポーツの役割”

講師

ミズノ株式会社

社長 水野 正人 氏
(東京 RC)

【略歴】

1943年（昭和18年）5月25日生まれ 本籍地 大阪市中央区北浜4-25

1966年（昭和41年）3月 甲南大学 経済学部 卒業

1970年（昭和45年）5月 米国ウイコンシン州 カーセージカレッジ理学部 卒業

【職歴】

1988年（昭和63年）5月 代表取締役社長 就任

【主な団体役員歴】

自1991年（平成3年）6月 (社)日本ゴルフ用品協会 会長

自1996年（平成8年）2月 IOC(国際オリンピック委員会)スポーツ・環境委員会 委員

自1999年（平成11年）5月 (財)ミズノスポーツ振興会 会長

自2000年（平成12年）5月 (社)日本スポーツ用品工業協会 会長

自2001年（平成13年）4月 (財)日本オリンピック委員会 理事

自2001年（平成13年）8月 世界スポーツ用品工業連盟 会長

1990年（平成2年）5月 カーセージカレッジ 名誉工学博士号

2001年（平成13年）6月 オリンピックオーダー銀賞受章

ミズノ株式会社社長水野正人氏は2003年11月9日、アピオ甲府で開かれた国際ロータリー第2620地区大会で「スポーツが地球を救う～21世紀のスポーツの役割～」と題して記念講演。「スポーツという山・富士山をいよいよ高くし、そのすそ野を広げ、環境をますますきれいにしていこう。そうすることで、今後何世代にもわたって生きる人々から『20世紀後半から21世紀にかけて、先人たちが地環境浄化に懸命に取り組んでくれたおかげで、われわれの星 地球はこんなにきれいな星になった』と喜んでもらえるようにしよう」と、強調した。講演の要旨は次の通りである。

「創造」・「夢の実現」は最も好きな言葉

国際ロータリー2620地区大会のテーマ「創造・夢をかたちに」は素晴らしいと思います。私の大好きな言葉です。この大会で講演させていただけることは、私にとって大変光栄であります。実は本日、ミズノ女子ゴルフトーナメントの表彰式がありますが、「地区大会で講演を」とのご下命は、去年から受けておりましたので、私もロータリアンの一人として約束を果たさねばならないとやって参りました。

「創造」・「夢の実現」ということは、夢を形にする、つまり「夢を実現する」ということであり、そのためにベストを尽くすということでありましょう。

私の本日お話しするタイトルは「スポーツが地球を救う～21世紀のスポーツの役割」です。大きなタイトルを掲げましたが、皆様に興味を持っていただき、ともに21世紀のスポーツの役割について考えていただきたいと思います。

幼稚園から大学まで「甲南漬」

本日の話のアウトラインとしては「1. 自己紹介とロータリークラブ」「2. スポーツ概論」「3. 競技スポーツとオリンピック」「4. 生涯スポーツと健康」「5. スポーツと環境」「6. まとめ」を挙げさせていただきます。

私は、祖父が始めましたミズノを引き継いだ三代目として育ちました。生まれは芦屋で幼稚園の入園試験に合格して甲南に入りまして以降、大学卒業まで「甲南漬」でした。祖父母・両親と兄弟合わせて八人家族の中で育ちました。

父の影響で天体に興味

少年時代、父から大きな影響を受けました。父は天体反射望遠鏡を2台持っており、うち1台を私に与えてくれましたので、私はごく自然に天体少年になり、美しい星を眺めるようになりました。中学2年生の折、父とともに京都大学の華山天文台を訪問、宮本正太郎先生から、土星の輪について教わりました。研究所の望遠鏡は素晴らしいもので、土星の輪がくっきりと見えました。

宮本先生は「土星の輪がどんな風にして出来あがったか知っていますか」と、私に質問さ

れました。「知りません」と答えると「土星の周りには、月がいっぱいあったんだ。それが長い年月の間にまとまって、輪が出来あがったんだよ」と教えて下さったのです。土星とその輪の美しさとともに、私は先生のお話に感動し、その時から宇宙のロマンを考えるようになりました。それは今も考え続けており、地球をきれいにしたい、宇宙の美しさを保ち続けたいと願っております。

甲南大を卒業してアメリカに渡り、4年を過ごしました。エバンストンの北ラシーンという町で暮らしましたが、この町はロータリーの創立者・ハリスの生れた町であることは、皆さんご承知の通りです。

当時のアメリカは、アポロ計画に燃えていました。アポロ11号が月面に着陸しましたし、13号はトラブルを克服して、無事地球に帰還しました。すべてを仕組みに基づいて進める「システムエンジニアリング」は、その後世界に広まりました。

ロサンゼルスで妻と巡り合う

1969年に、妻とロサンゼルスで巡りあいましたが、その輝く美しさにひと目惚れし、結婚を決意しました。本日、妻もこの会場に来ております。

1970年に帰国。大阪で4年間勤務しましたが1974年に東京勤務となり、以来東京暮らしです。東京に住むようになって、おもしろくないことがありました。スモッグです。

何があっても星を見て歩く

私は、何があっても星を見て歩きます。星を見上げていますと、宇宙の大きさに打たれます。壮大な宇宙の小さな地球という星に住んでいる自分を考えますと、さまざまな課題を抱えた時も「たいした事ではない」と自ら勇気付けることが出来ます。

ところが東京ではスモッグがひどくて、その星が見えない。理由を考える中で、環境汚染に気づき、その改善、保全について考えるようになりました。

大阪 RC から東京 RC 会員へ

大阪ロータリークラブには、1979年に入会しました。祖父・父の代から大阪ロータリークラブ会員なのだから、三代目として入会するよう勧められたのがきっかけでした。考えてみま

- | |
|----------------------------|
| ロータリー暦 |
| 1. 大阪 |
| a. 1979年入会 |
| (1) 100% 東京のどこかのクラブでメイクアップ |
| (2) 出来ないロータリアン |
| 2. 東京 |
| a. 1986年に東京クラブへ移った |
| b. 友委員 (不良読者→立場変われば熟読促進) |
| (1) 初めて真剣に「友」を熟読、よく出来ている |
| (2) 2620地区「友委員」甲府西・笠井忠文さん |
| c. ガバナー補佐・副幹事 |
| (1) 昨年度ピチャイ・ラタクル会長 |
| (a) 奉仕のあり方 |
| 1) ラタクル会長の経験 |
| (2) ジョナサン・マジアベ会長 |
| (a) LEND A HAND |

すと、24年間優等生ロータリアンとはいかず、年中メイクアップばかりしております。

この間に、1986年に父から「弟を大阪ロータリークラブに入れるので、東京ロータリークラブに移るのがいいだろう」と言われて、東京ロータリークラブに入れていただきました。

私は最近まで「ロータリーの友」は、ほとんど読んだことはありませんでした。ところが去年、地区のロータリーの友委員をいつかりました。そうすると「ロータリーの友」を読まない訳にはいきません。読んで見ますと、これが実によく出来ています。ロータリーの会員は日本で11万何千人、世界に100万人ぐらい居るといったデータもきちんと掲載されています。「ロータリーの友」を開きますと、左側からは、ロータリアンとして読むべきものの、右側から皆さんの思いなどが伝わる記事が掲載されています。一冊が右脳左脳のように働いている。目からウロコが落ちる思いで、私は「ロータリーの友」を読むようになりました。

『「ロータリーの友」を読まなあかん』『読んでなかったら、ロータリアン違う』と思います。皆さん、互いに「ロータリーの友」をしっかり読むようお願い致します。

体を動かし奉仕しよう

ラタクル RI 会長時代に、私はガバナー補佐の副幹事をさせて頂いたことがあります。鈴木和雄地区ガバナー補佐について、ロータリークラブの諸活動に参加しました。その経験を通して、時代の悪化とロータリーの変化を教えられました。

ラタクル RI 会長は、ロータリークラブの会合にきちんと出席し、ロータリアンとしてやるべきことはすべてやるという人でした。ある時、父のいない子供たち(母子家庭の子供たち)を遊ばせるロータリーのプログラムに参加した。1人、孤立して皆になじめない子が居たので、その子と1日浜辺で遊んだ。帰りに、その子を家まで送って行ったところ別際になって「おじさんが、ぼくのお父さんだったらいいのに！」と足にしがみついて泣かれた話をききました。また、政治家でもあったラタクル会長は、貧しい地域の人々の中に入って演説する機会がしばしばあり、演説を終えてひと息入れていると、貧しい身なりの子供が、紙コップに砂糖きびと水を入れ持って来て「おじいさん、のどが渴いたでしょう。これを飲んで下さい」と差し出してくれたことなどを話して下さいました。「ロータリアンも奉仕活動を、体を動かしてやらねばならない」と話されたのを、とても印象深く聴きました。

スポーツはルールで世界を結ぶ

本日、RI 会長代理としてご出席の伊藤義郎さんは、国際スキー連盟副会長であり、日本スキー連盟の副会長をされています。その伊藤さんの前でスポーツの話をしますのは、緊張することではありますが、話を進めさせていただきます。

スポーツは世界平和、健康、親善に役立つものであります。スポーツには筋書きはありません。結局今年のプロ野球の日本一はダイエーに持って行かれましたが、甲子園での阪神の

延長での勝利は、皆さんの胸のうちに焼きついているはず。懸命に頑張っでぎりぎりのところで、紙一重のところでは勝敗が入れ替わります。もし筋書きのあるドラマでしたら、こうは行きません。スポーツの素晴らしさ、楽しさは、このところに凝縮しています。

もう一つスポーツにはルールがあります。互いにルールが解かれれば、人種が違い言葉は通じなくても、スポーツの試合は成立します。選手たちは勝利を目指して競い合うことができます。つまり、スポーツは国際性が豊かなのです。

試合中は互いに勝利を目指して戦いますから、互いにライバル同士です。しかし試合が終了すれば、選手達は友になれます。よく知られていますように、ラグビーは試合の終りに「ノーサイド」の笛が鳴ります。試合が終了すれば、選手達は互いの健闘を称え合い、そこに友情が生まれ、育ちます。

「フェアプレー」は素晴らしい

スポーツの素晴らしさを支えるものに「フェアプレー」があります。スポーツを通じてフェアに相手に接するようにする、相手の立場に配慮して行動できるようになる点が素晴らしいと思います。私は甲南で7年間、サッカー部に所属しておりましたが、ずっとベンチを暖めておりました。そこから眺め続けたフェアプレーの数々は、実に気持ちのいい思い出として心に残っております。スポーツを通して、互いにフェアプレーの精神を磨き上げれば、世界平和につながり、スポーツが地球を救うことに結びつくはずであります。

スポーツは、勝つという目的のために全力を尽くすものであります。やる限りは、勝つことが目的です。そのためにどんな戦略、戦術を展開するか。互いに力と技の限りを尽くすこととなります。練習は当然厳しく、苦しいものとなりますが、そのことを通して人間が磨かれ、社会に出ていろいろな苦勞に直面しながらも、それらを克服して活躍することにつながります。国際スポーツ大会などで、選手たちが肩をたたき合って、再会を喜んでいる姿などを見ますと「スポーツは友情を生む」ことを実感します。

スポーツ振興と若者への期待

スポーツの素晴らしい面について話して参りましたが、素晴らしければ素晴らしいほど、つまり光りが強ければ強いほど陰が濃いことも事実です。スポーツに打ち込んで、半身不随などの障害を負うなどの事例もあります。

私たちは、より良いスポーツの世界をつくるために全力を尽くしています。次代を担う若者達を、健全な精神と肉体を持つ若者として育てて行きたい。そのためには施設・用具・ケガ予防・時間などの各面で、配慮を行き届かせることが大切と考えます。「スポーツをして下さい」では済まされません。

固いイメージのスポーツ打破

スポーツは長い間「教育・訓練・競技」という固いイメージがついて回り、たくましい体をつくるというものとして、位置づけられて参りました。しかし、これだけで終わってはいけないと思います。スポーツは、やれば楽しい。やれば健康になる。競争相手は多いが、やればそうしたライバルたちと、いいコミュニケーションが取れるようになる。少しでもうまくなれば、生きがいに繋がります。そうして、ますます普及させて行きたいと思えます。

「楽しさ、健康、コミュニケーション、クリエイション（生きがい）」の輪を、スポーツを通して広げていきましょう。

「見る」、「する」スポーツの振興

分類	b. 「競技スポーツ」と「生涯スポーツ」
a. 「見るスポーツ」と「するスポーツ」	(1) 競技スポーツ
(1) 見るスポーツ	(a) 力と技の限界
(a) テレビで放映されるスポーツ	(b) 弛まなき訓練
1) オリンピック、競技ごとの国際大会など	(c) 施設と用具
(b) 観客動員が大きなスポーツ	(d) 科学的なアプローチ
1) プロ、社会人、インターカレッジ、インターハイなど	(2) 生涯スポーツ
(2) するスポーツ	(a) 楽しさ・遊び
(a) ゴルフコンペ	(b) 健康
(b) 草野球	(c) 仲間創り
(c) テニス教室	(d) 自分創り
(d) マラソン大会	
(e) ウォーキング・散歩	

スポーツをカテゴリーで分けると、大きくは「見るスポーツ」と「するスポーツ」に2分することができます。「見るスポーツ」の目安として、スポーツ新聞の隆盛があります。駅のスタンドで売られているスポーツ新聞の人気は上々です。一般の新聞のテレビ欄のスポーツ番組を、例えば黄色い鉛筆で塗りつぶして行きますと、大きなスペースを占めていることが分かります。数多くの皆さんは1日のうち相当な時間、テレビを通してスポーツを見ていただいている、楽しんでいただいていることが分かります。

スポーツを放送する演出、技術、解説の進歩にも目を見張ります。例えば、スキージャンプの放映は、初期の頃は、横と前にテレビカメラを置くだけで選手をとらえていましたが、今は10台以上のカメラを使用しての放映で、インスタント・リプレイも即時に出来ます。解説を聴いているとワクワクしてきて、スキー競技の楽しさが味わえます。アトランタ五輪の時、水泳プールの上の方にケーブルがセットしてあり、何だろうと思ったのですが、泳ぐ選手の姿を上からとらえるカメラの導線でした。水中で選手をとらえるようにもなって、見るスポーツは大いに皆さんに楽しんでいただけるようになりました。

シドニー五輪で、日本の女子ソフトボールチームは銀メダルをとりました。その後、女子ソフトボールを楽しみましょうと呼びかけたら、何と1000人の女の子たちが集まったという例があります。これは見るスポーツが盛んになれば、するスポーツ人口が増えた例と言えます。

今、サッカー少年が増えていることは、皆さんご承知の通りです。J1サッカーの盛んなこと、日本でワールドカップが行われたことなどがサッカー界に好影響を与えています。また少年たちにとって、試合中はずっと、広いグラウンドを回っていただけることも大きな魅力となっています。その点、野球はボーク、タッチアップ、盗塁など、ルールが厳しいものから、最近野球少年は減ってきています。

日本選手たちの活躍続く

さて、競技スポーツに打ち込んでいる選手達は「よりうまくなりたい」と努力している訳ですが、よい結果を出す日本人選手が増えてきています。今年の7月、水泳の北島康介選手は、2種目で連続世界新記録を出して優勝。パリの世界陸上で室伏広治選手はハンマー投げで、末続慎吾選手は短距離でメダルを獲りました。これは世界に大きな衝撃となりました。世界柔道選手権で日本は6個、女子レスリングでは5個の金メダルを獲りました。長嶋ジャパンが、全勝でアテネ五輪への切符を手に入れたことはよく知られる通りです。これらの選手たちの多くは「オリンピックでメダルを」と頑張っています。

オリンピックと環境問題対応

古代オリンピックは、BC 776年から4年に1回開かれました。「オリンピック中は戦争はしない」というのが決まりでした。

近代オリンピックは、フランスのクーベルタン男爵によって、1894年に提唱されました。1900年のパリ万博で開く予定でしたが、実際には、1896年アテネで行われたのが第1回近代オリンピックです。その後、戦争で中止されたこともあります。ご承知の通り、冬季五輪も行われるようになり、今日に及んでおります。

冬季五輪は当初、夏季五輪と同じ年に開かれたのですが、後に夏期の五輪をはさんで行われるようになりました。1992年夏季バルセロナ、冬季アルペールビルが開催された後、94年にリレハンメル冬季五輪、96年アトランタ夏季五輪、98年長野冬季五輪、2000年シドニー夏季五輪、2002年ソルトレイクシティ冬季五輪、2004年アテネ夏季五輪と2年おきに夏季・冬季五輪が開催されるようになりました。

ブランデー国際オリンピック委員会会長は、アマチュアリズムを強く厳しく通用しました。このため、世界のスポーツは盛り上がりませんでした。キラニン会長の時、1979年12月27日にソ連が、アフガニスタンに侵攻しました。このため翌年のモスクワオリンピックには、選手を送らない国が多かったことは、よく知られています。

キラニン会長の後任は、スペインの銀行家で外交官、ビジネスマンのサマランチ氏でした。サマランチ氏は「キラニン会長は、モスクワオリンピックのために、戦争を止めるべきだと時のソ連首脳に言うべきであった」と発言されました。また「オリンピックは政治と関係ない」と言うこと自体が「極めて政治的だ」とも、発言されました。

サマランチ会長は、どこへでも出かけられました。また、アマチュアリズムをオリンピック憲章からはずし、スポーツ振興に力を尽くされました。

リレハンメル冬季五輪開会式は、極寒の中で開かれましたが、サマランチ会長はこれに出席され「戦争を止め、武器を捨てよ」と呼びかけられました。

この年、近代オリンピック提唱から100周年に当たって、IOC（国際オリンピック委員会）の中に環境委員会を設けるよう提案しました。翌1995年「IOCスポーツ環境委員会」が設置され、環境問題への取り組みが始まりました。今年はイタリアのトリノでこの世界会議が開かれることになっています。私たちはさまざまな環境問題についての啓発と実践活動を展開しています。

JOC（日本オリンピック委員会）にも、スポーツ環境委員会の設置を提案しましたが、時の古橋廣之進会長から「委員会を作っても、何もやらないから同じことだ」と言われてしまいました。八木故会長になりまして再提案しましたところ「やりなさい」ということでスポーツ環境委員会が誕生、私は委員長を言いつかりまして、環境浄化活動に取り組んでいます。

JOCスポーツ環境委員会

1. 委員会活動

a. 啓発活動

- (1)ポスター貼付
- (2)パンフレット配布

b. 実践活動

- (1)施設設備に対する対策
- (2)エネルギー・資源の節減
- (3)ゴミの分別
- (4)自然環境の保護

水泳のパンパシフィック、アジア大会、東京マラソン、テニスのジャパンオープン、シンクロナイズド・スイミング大会、バレーボール大会、ユニバーシアード大会などで、ゴミの分別収集活動などを展開。ビニール袋にガムテープを貼り、ゴミの種別を書いて置きますと、誰もが分別収集に協力してくれるようになりました。紙についても新聞、コピー用紙、雑誌など種別に集めて置きますと再利用が可能です。カン、ビン類のリサイクルも進むようになりました。

私の会社では、ペットボトルからさまざまな製品を作っています。また、生ゴミは肥料作りに活用、木のバットの残り物からは炭を作っています。

JOCでも今年の7月「ISO 14001」を認証取得しました。会議中は禁煙が行きあたり、建物内部もきれいになりました。環境浄化の方針を打ち出し、目標を決め、実行し、その見直しを行いながら、前進しています。環境問題への取り組みは、ゴールのない、忍耐力のいる仕事です。私たちは、21世紀以降、末永く生きる子孫たちから感謝されるような環境づくりを進めなければなりません。「Think Globally, Act Locally!」を実践して、地球を救う活動の輪を広げて参りましょう。